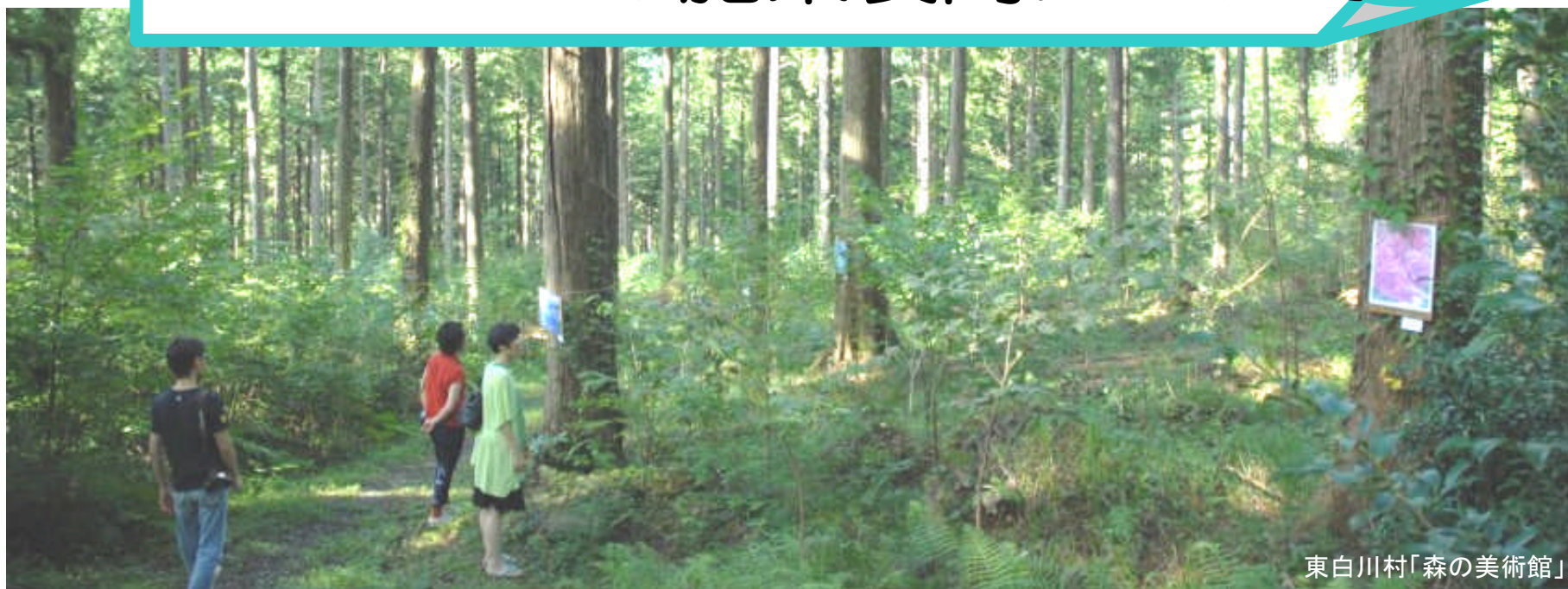


森林を守って活かす 「恵みの森林^{もり}づくり」 の施策展開について



平成25年3月21日 岐阜県政策研究会
研究員：長沼 慶拓（林政課）、堀部 佳子（治山課）

※本レポートは、「岐阜県政策研究会」の研究の途中経過として、現状認識と考え得る方向性をまとめたものであり、県としての公式な考え方を示したものではありません。

本日の発表の趣旨

県では、平成18年に岐阜県森林づくり基本条例を定め、「植えて育てる」から「伐って利用する」ことに焦点をあて、産業として成り立つ林業の構築により「生きた森林づくり」を進めてきた。

しかし、植えて育ててきた人工林のなかには、林業の経営が困難な立地条件にある森林も存在し、将来にわたり、重要な機能（水源涵養・災害防止など）を維持・発揮させていくためには、これまでとは別の視点での施策が必要とされている。

本日は、その対応策として、森林を「守って、活かす」ことに焦点をあてた「恵みの森林づくり」の施策展開についての研究発表を行う。

本日の発表の流れ

- I. はじめに
- II. 恵みの森林づくりの現状と課題
- III. 恵みの森林づくりの今後の方向性

I. はじめに

岐阜県は、全国でも有数の森林資源を有する。
『ぎふは木の国、山の国』



森林率＝県土に占める森林の割合

1	高知県	84 %
2	岐阜県	82 %
3	島根県	78 %
4	長野県	78 %
5	山梨県	78 %



1	北海道	5,539千ha
2	岩手県	1,174千ha
3	長野県	1,059千ha
4	福島県	972千ha
5	岐阜県	866千ha



森林蓄積＝森林の立木の幹の体積。
木材として利用する部分の量

1	北海道	723百万m ³
2	岩手県	220百万m ³
3	長野県	184百万m ³
4	福島県	159百万m ³
5	岐阜県	156百万m ³

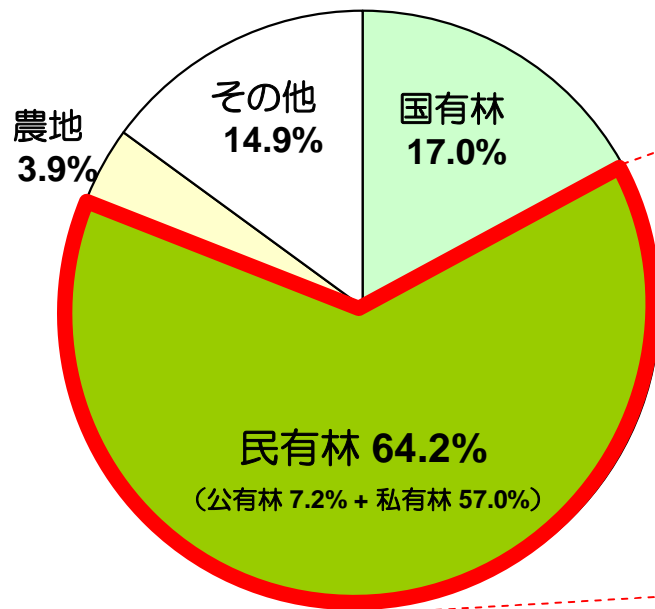
出典：林野庁ホームページ H19年度末データ

県の施策でカバーする「民有林」は、県土の約64%。
民有林のうち、人工林は45%。県土の約3割が民有人工林である。

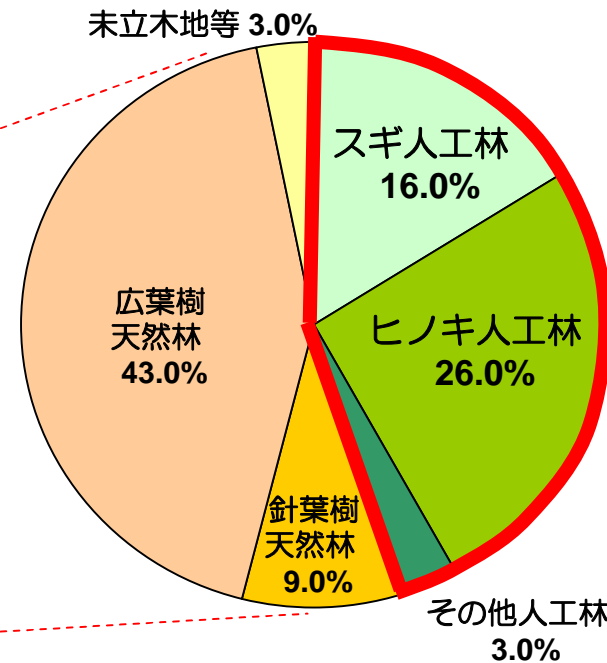
国有林：国が所有する森林

民有林：国以外(地方公共団体等が所有する公有林＋個人等が所有する私有林)が所管する森林

県土の面積割合(岐阜県)



民有林樹種別面積割合(岐阜県)



出典：岐阜県森林・林業統計書 H22年度末データ

森林には、木材生産以外にも、多くの重要な役割がある。

木材生産



土砂災害防止



二酸化炭素吸収



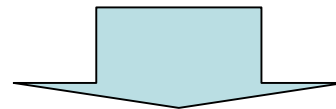
水源かん養



保健休養



野生動植物の生息場所

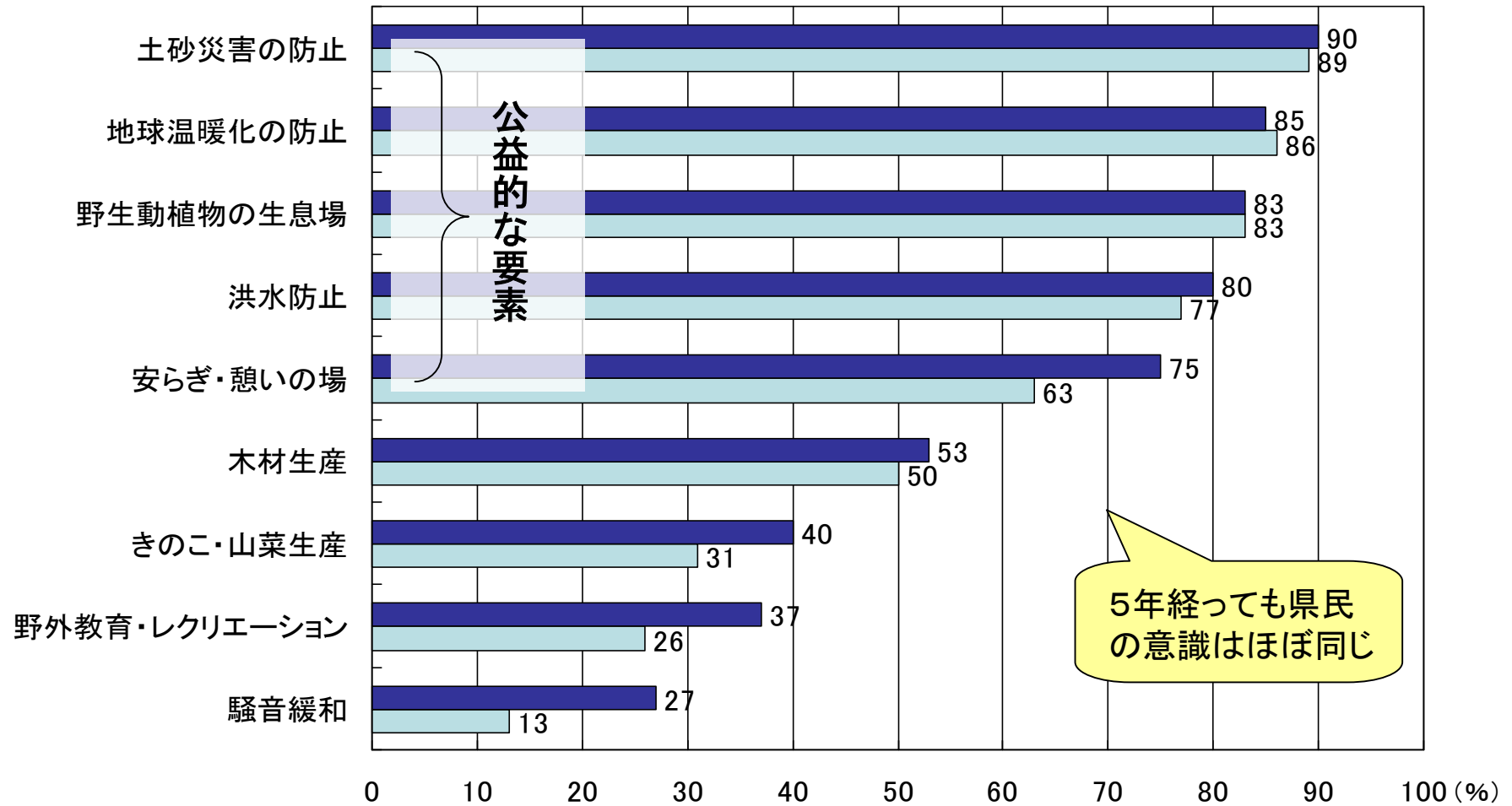


これらを総称して『多面的機能』という

森林の多面性に関する役割のうち、公益的な要素が重要だと考える県民は多く、アンケート調査の上位5つを占める。

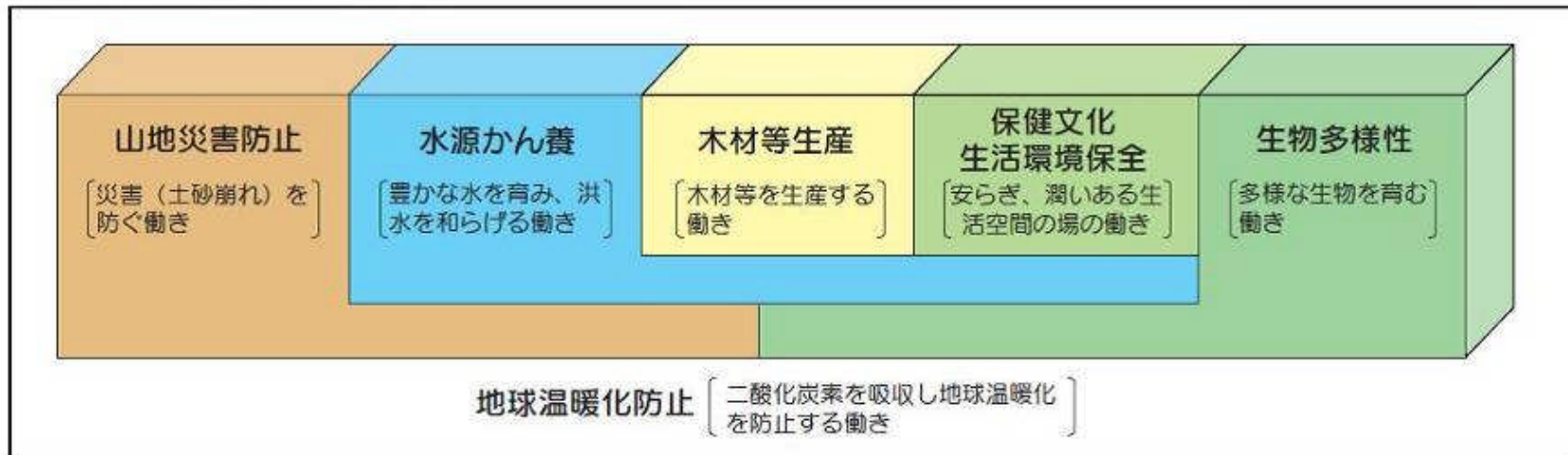
県民が重要だと思う森林の役割(複数回答)

H22 H17



森林の多面的機能は、それぞれが密接に関係しながら階層性を持っており、下部に位置する機能ほど基本的かつ優先性を持つ。

森林の多面的機能の階層性



出典：「岐阜県森林づくり基本計画」

木材等生産の機能を持つ森林も、それ以外の多面的機能が発揮されることが基本となる。

木材生産以外の森林の多面的機能の評価額は、約2兆3千億円/年
県民1人あたりに換算すると約110万円/人・年。

森林の有する多面的機能の貨幣評価

機 能		全国評価 (億円/年)	岐阜県評価 (億円/年)
水源かん養	水質浄化	146,361 (20.8%)	5,665 (24.4%)
	水資源貯留	87,407 (12.4%)	4,110 (17.7%)
	洪水緩和	64,686 (9.2%)	2,493 (10.7%)
山地災害防止	表面浸食防止	282,565 (40.2%)	6,739 (29.0%)
	表層崩壊防止	84,421 (12.0%)	2,914 (12.6%)
保健休養	保健休養	22,546 (3.2%)	775 (3.3%)
生活環境保全	二酸化炭素吸収	12,391 (1.7%)	471 (2.3%)
	化石燃料代替	2,261 (0.3%)	42 (0.2%)
合 計		702,638	23,209

全国に比べ、水源かん養に
関する割合が高い

出典：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」
(平成13年11月1日)及び国答申に基づく岐阜県の試算による

例えば、森林の「水資源貯留機能」をダムの貯水量に換算すると・・・

岐阜県の全森林の貯留量は、日本一の貯水量である徳山ダムの13倍以上

森林は江戸時代から戦後まで、過剰なほどに伐採されてきた歴史がある。昭和20年代後半から、山地保全のため、国を挙げて針葉樹の植栽を実施してきた。

江戸時代から、森林の乱伐と禁伐は繰り返されてきた

乱伐：無計画に伐りつくすこと
禁伐：樹木の伐採を禁ずること

元禄5年(1669年)に幕領となった飛騨国の御林山は、江戸や飛騨の商人が請負人となり、公共土木用材等のために乱伐され、口山から奥山までほとんど伐りつくされた。
出典：岐阜県林業史 上巻(飛騨国編)

【イメージ図】



産業革命による燃料需要の拡大

戦中・戦後、資材供給のため、はげ山が拡大

緊急的な山地保全として成長の早い針葉樹で人工林化

大規模な水害や土砂災害が頻発

荒廃が進んだ森林への植林の様子



I章：はじめに

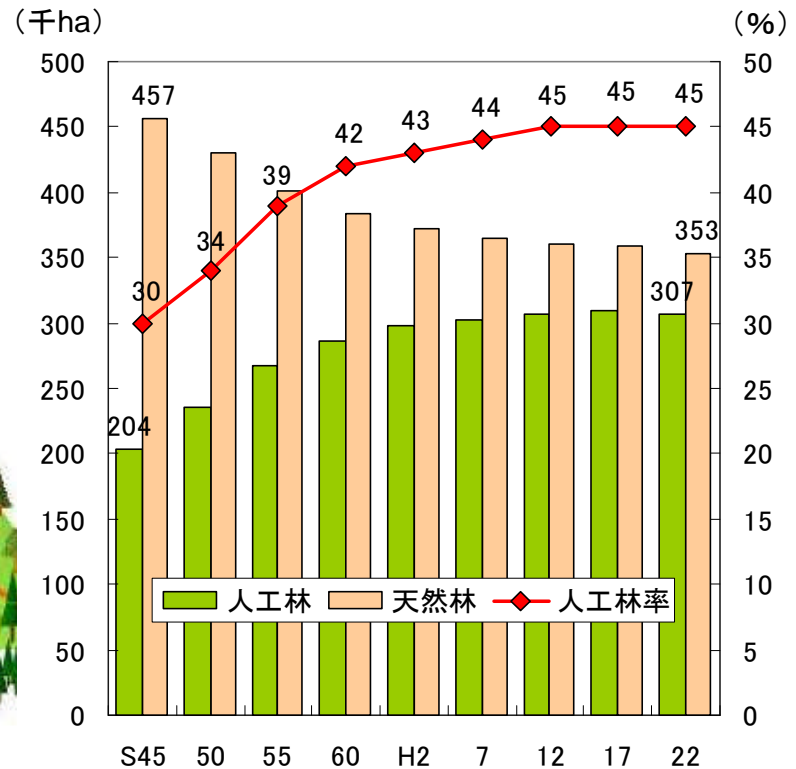
高度経済成長の下で増大する木材需要に対応するため、奥山の天然林や里山の雑木林を、成長が早く経済的価値のある人工林に転換を進めた。

昭和30～50年頃

急増する建築資材としての需要への対応が第一優先。



県内民有林 森林面積と人工林率の推移

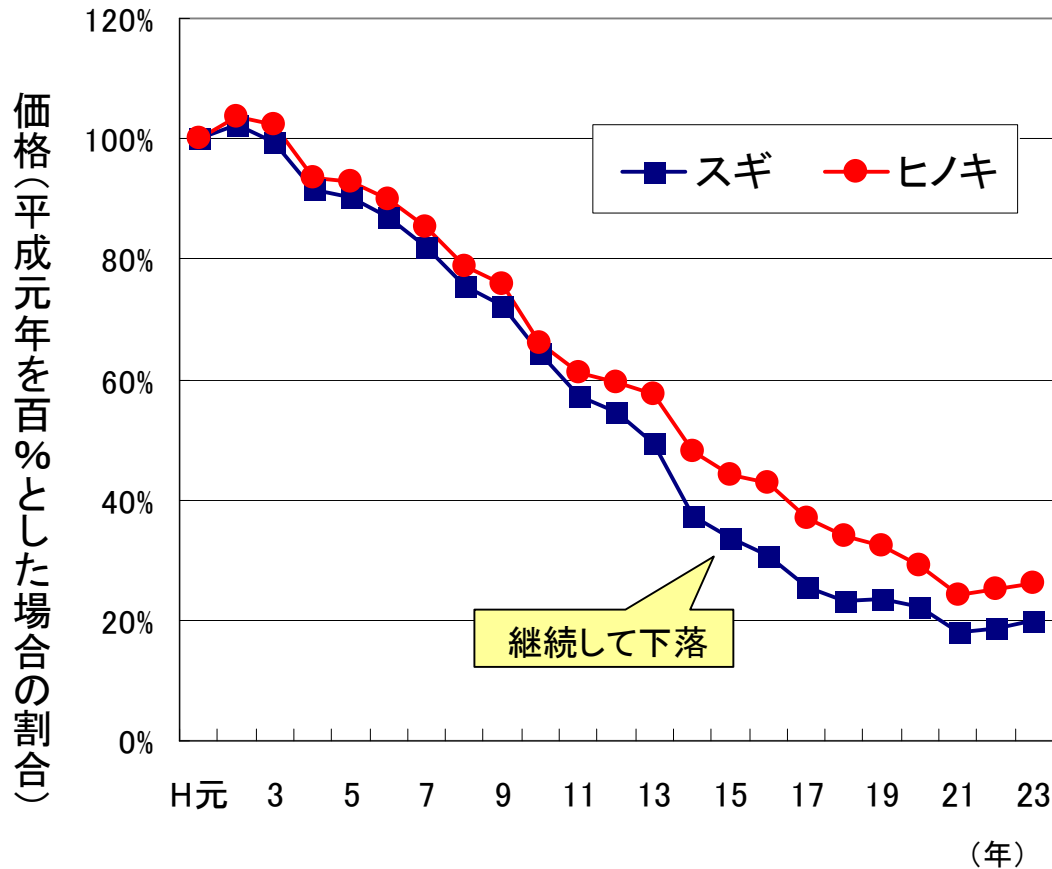


出典：林野庁資料(100年後の森林の姿～過去・現在・未来～)

出典：岐阜県森林・林業統計書

平成元年以降、木材価格は下落を続け、森林の立木の価格は5分の1に下落。
林業所得は厳しい状況が続き、価値が見出しにくい状況である。

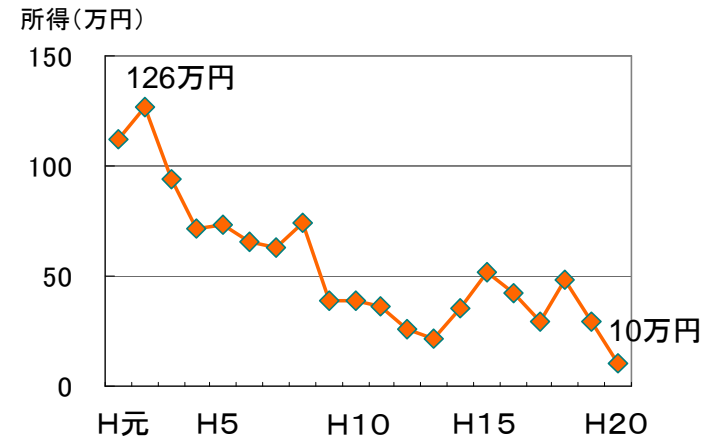
木材価格(山元立木価格)の下落率の推移



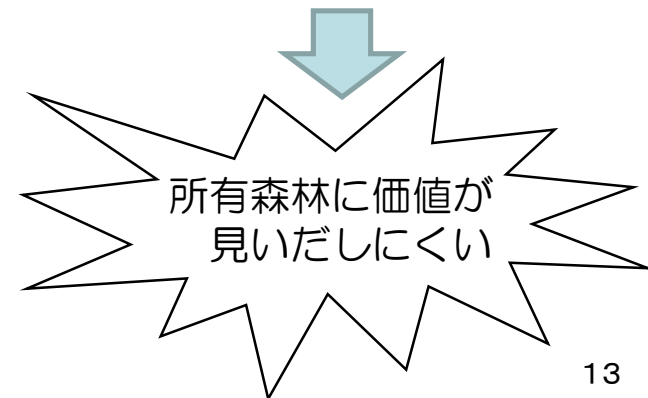
出典：林野庁 木材価格統計

林業所得の推移

林業所得：林業を営んでいる人の、林業による年間所得



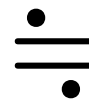
出典：～H13まで農林水産省「林家経済調査」
H15以降 同省「林業経営統計調査」



「木材生産」とは別の多面的機能の発揮・維持のための施策も必要ではないか。

これまでは、「木材生産による健全な林業経営」に向けた施策を介して、その他の森林の多面的機能を維持しようとしてきた。

健全な林業経営の実施



森林の持つ多面的機能の向上

「最も美しい森林は、また最も収穫の多い森林である」ドイツの林学者アルフレットメーラーの恒続林思想より

決して間違いではない・・・、が、しかし

木材価格の下落等による採算性の悪化など社会情勢の変化により、全ての人工林で林業経営を続けていくことは困難。

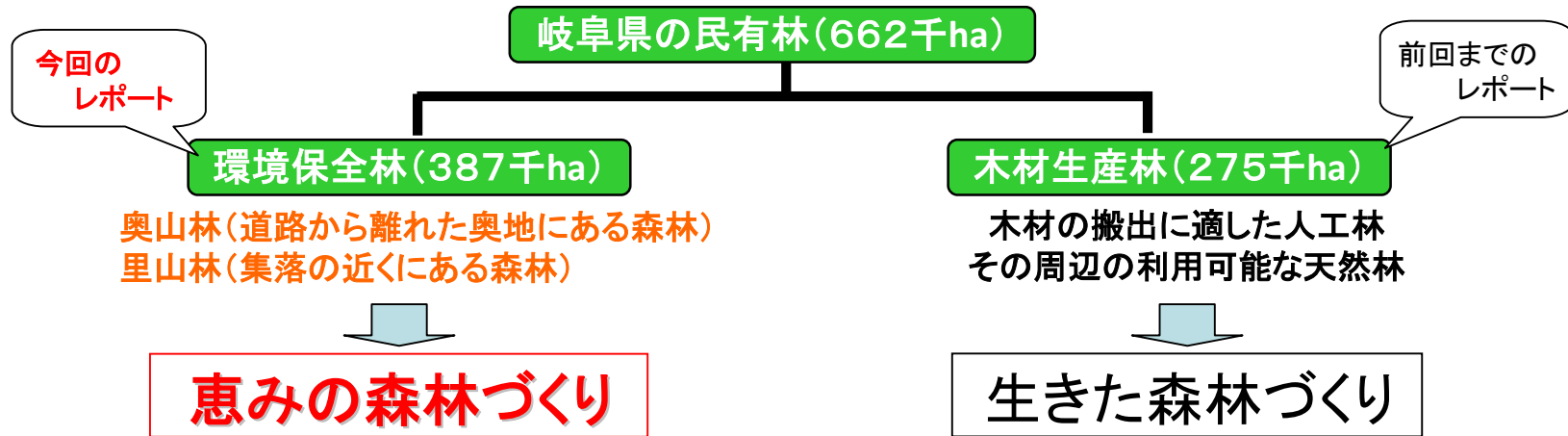


全ての森林を、「木材生産」を介した一律の施策でカバーできない。

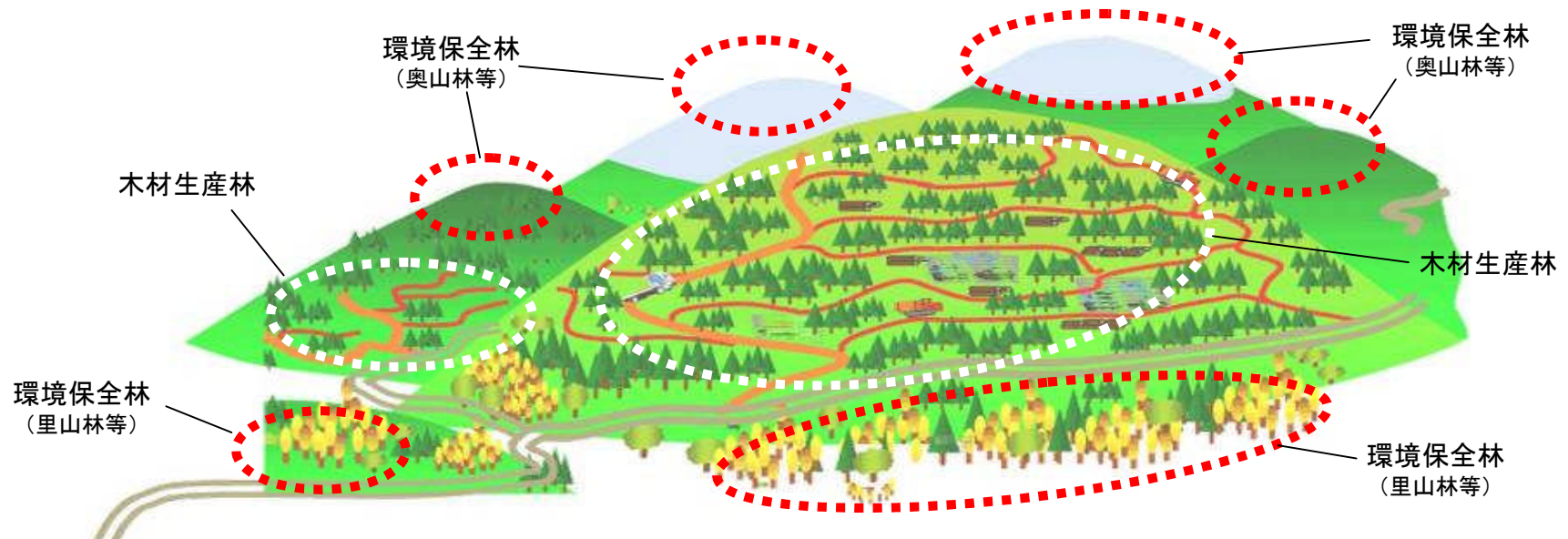


「立地ごとに重要とすべき多面的機能」「公益性」を見極め、その発揮・維持に直接対応する県独自の施策が必要。

県では、森林の性質や立地に応じ、個別に求める機能を明確化し、地域の森林全体で見て、保全と生産の持続的な両立を進めようとしている。



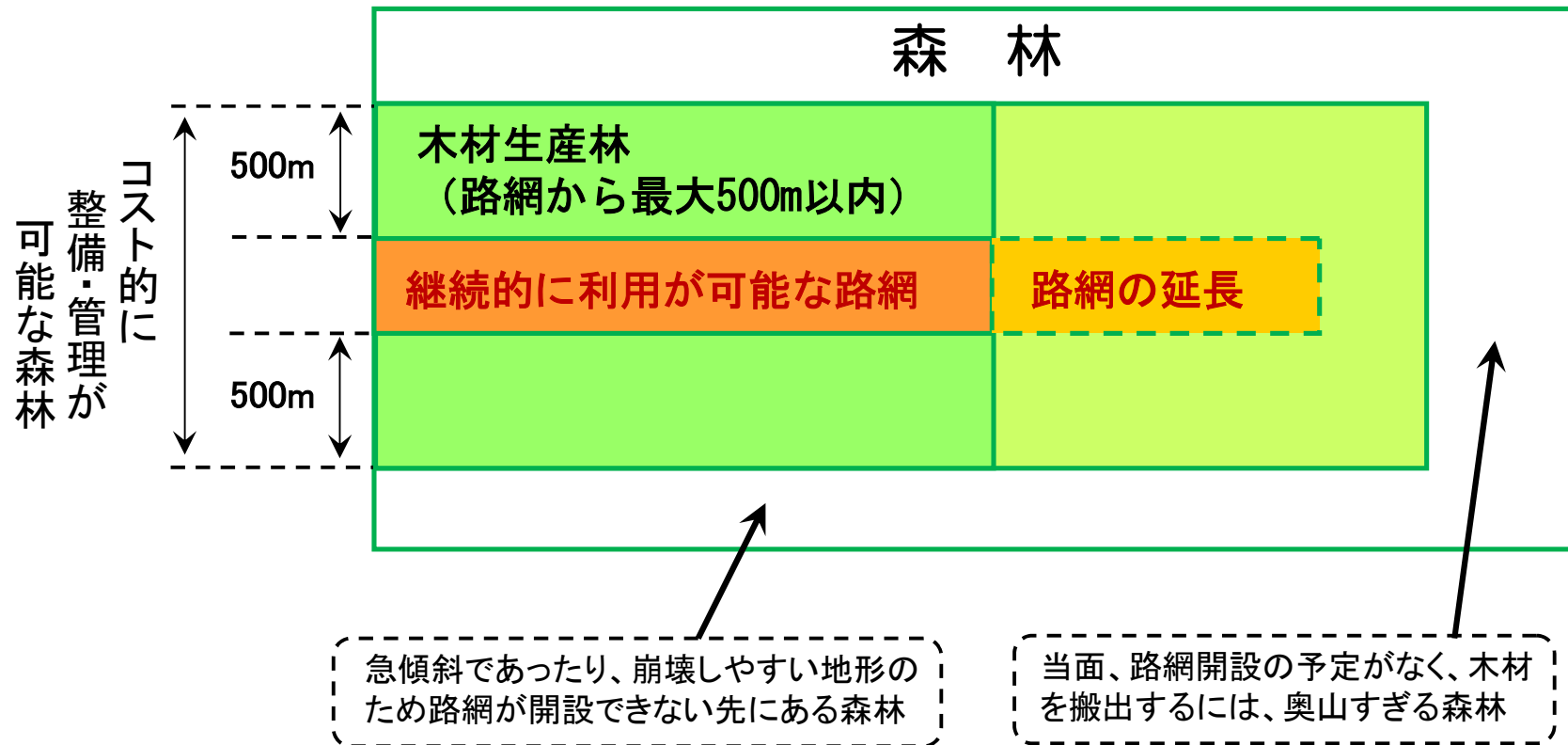
※環境保全林と木材生産林の量は、資源量に基づく推計値であり、今後、見直していく予定



人工林のうち、林業用の道から500m範囲を目安とした、コスト的に整備・管理が可能な森林が木材生産林であり、それから外れる森林に奥山林が含まれる。

【木材生産に適した場所、そうでない場所（イメージ図）】

出典：林野庁資料「路網整備の考え方について」を基に作成



「里山林」とは「集落の近くにある森林」と定義される（岐阜県森林づくり基本計画）。
※当レポートではその中の広葉樹林と一部の針葉樹林を対象とします。



第I章のまとめ

- ① 岐阜県の県土は、全国有数の森林面積、森林率を誇り、多くの木材が蓄積されている。
- ② 森林には、木材生産以外にも多面的な機能があり、森林の性質や立地によっては、多面的機能を優先させる必要がある。
- ③ 「立地ごとに重要とすべき多面的機能」「公益的な重要性」を見極め、その発揮・維持に直接対応する、木材生産を介さない施策（恵みの森林づくり）が必要。

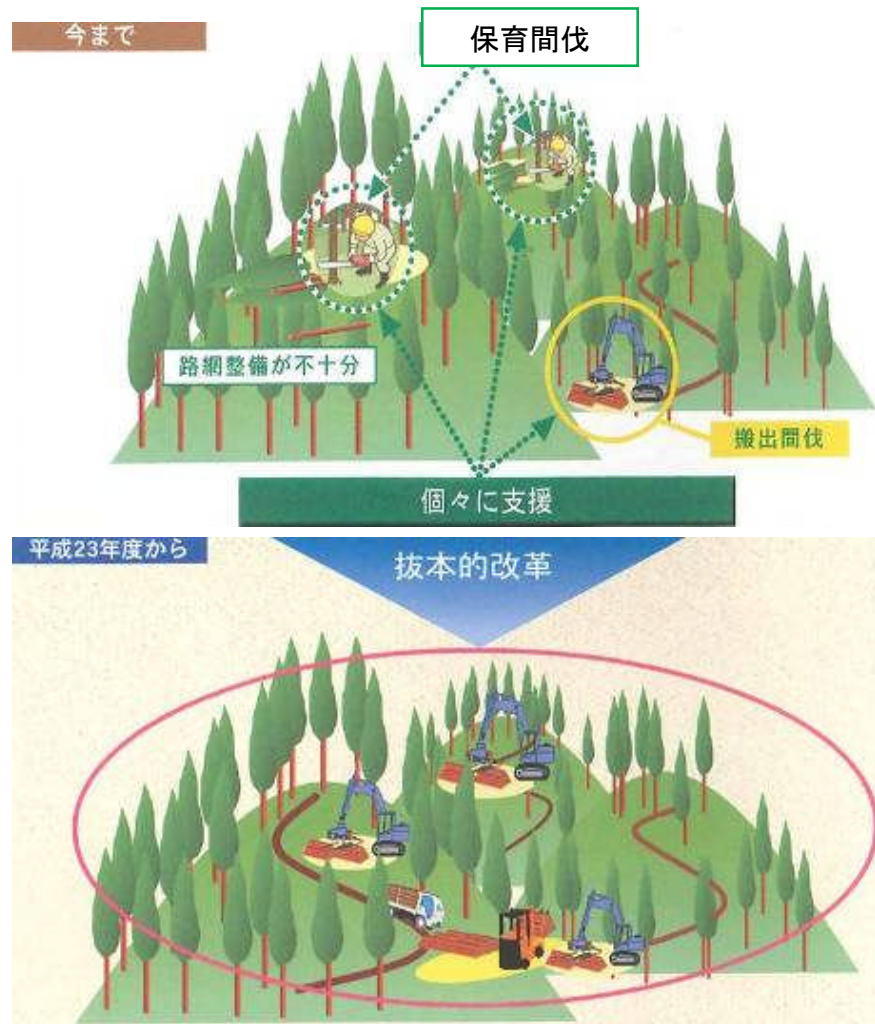
Ⅱ. 「恵みの森林づくり」 の現状と課題

- ・・・・奥山林等の『守る』森林
- ・・・・里山林等の『活かす』森林

奥山林等の『守る』森林

Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

国の補助事業は、「育てる林業」から「効率よく使う林業」へ誘導しており、多面的機能の発揮のために保育間伐（伐り捨て）が必要であっても補助されない箇所もある。



- ・ 道の付いていない奥山等の条件が不利な森林でも、いずれ木材生産するだろうということで保育間伐（切り捨て）を推進してきた。
- ・ 個々の森林を対象に、非効率な箇所も含めて、面積を基に補助金を支給。

H23年度の森林法改正により

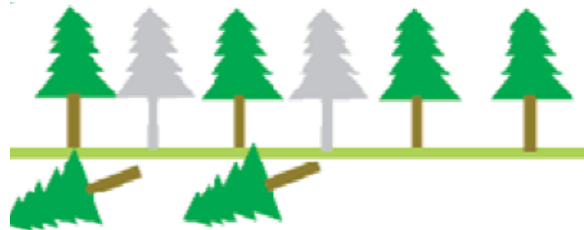
- ・ 面的に集約した森林から、木材を搬出するための間伐に対して補助へ転換。
- ・ 所有者に加え、森林経営の受託者も補助を受けることができる。

課題

効率的な木材搬出が進む一方、現状で条件の悪い奥山等では補助されず、整備が滞ってしまう。

健全な人工林づくりの基本である間伐を実施していない森林は、表土の流出を起こしやすく、水源かん養機能の低下の恐れがある。

『間伐』とは、成長に伴って混みすぎた森林の立木の一部を抜き伐りし、成長を促すことです。



- ・間伐を行わず、光が差し込まない森林では、下層の植生が乏しく、地表がむき出しとなり、雨などとともに表土が流れ去ってしまう。
- ・土壌が健全に保たれていない森林は、雨水の浸透量や保水量が低く、水源かん養機能が維持できない。



表土が流出し、地盤が緩んだ森林は、風倒木に伴う山腹の崩壊を起こしやすい。

事例紹介1：H16年台風による被害『兵庫県における風倒木に伴う山腹崩壊』

被害発生メカニズム

不健全な森林

- ・降雨による表土の流出
- ・樹木の揺れによる地盤の緩み



風倒木・崩壊発生

- ・倒木や根返りで、さらに地盤が緩む



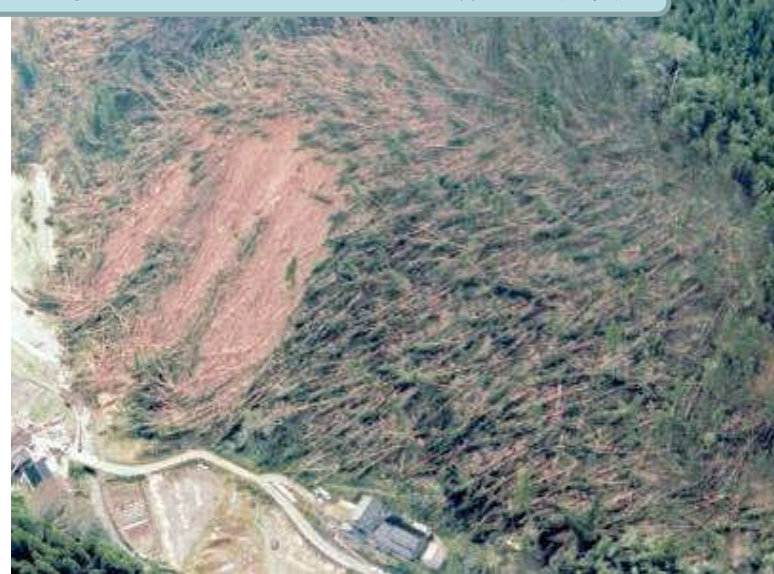
降雨の流入増加

- ・降雨緩和作用の低下
- ・地盤内への流入水の増加



風倒木被災地で山腹の崩壊が多発

風倒木に伴い発生した山腹の崩壊



風倒木と山腹崩壊(H16年台風23号後) 兵庫スカイフォトサービス

- ・民家まで近くまで、風倒木がおしよせている
- ・大規模な山腹の崩壊が発生した

山腹の崩壊に伴う流木は、県境を越え、漁業関係者にも被害を与えうる。

事例紹介 2：9・15豪雨災害（岐阜県における豪雨災害の状況）



Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

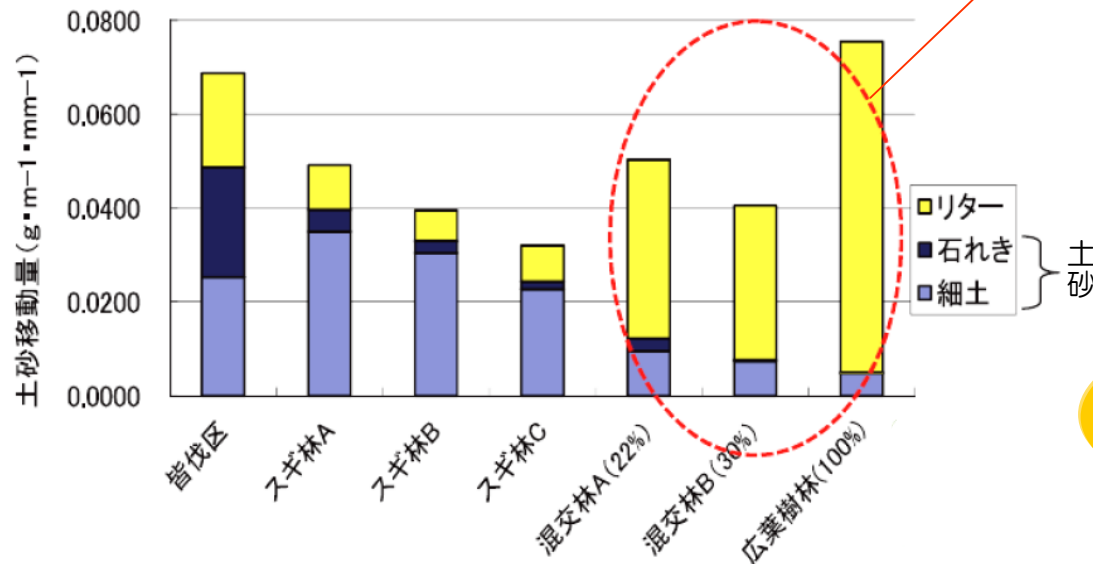
土壌保全能力は、スギ等の人工林に比べ、針広混交林・広葉樹林が高い傾向がある。

針広混交林
(針葉樹+広葉樹)
の林内→

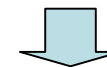


←広葉樹の落葉による
林地の被覆

スギ人工林・混交林・広葉樹林の土砂移動量



混交林や広葉樹林は、
スギ林と比べてリター
(落葉)の移動が多く、
土砂の移動は少ない。



土壌保全能力

人工林 < 針広混交林 < 広葉樹林

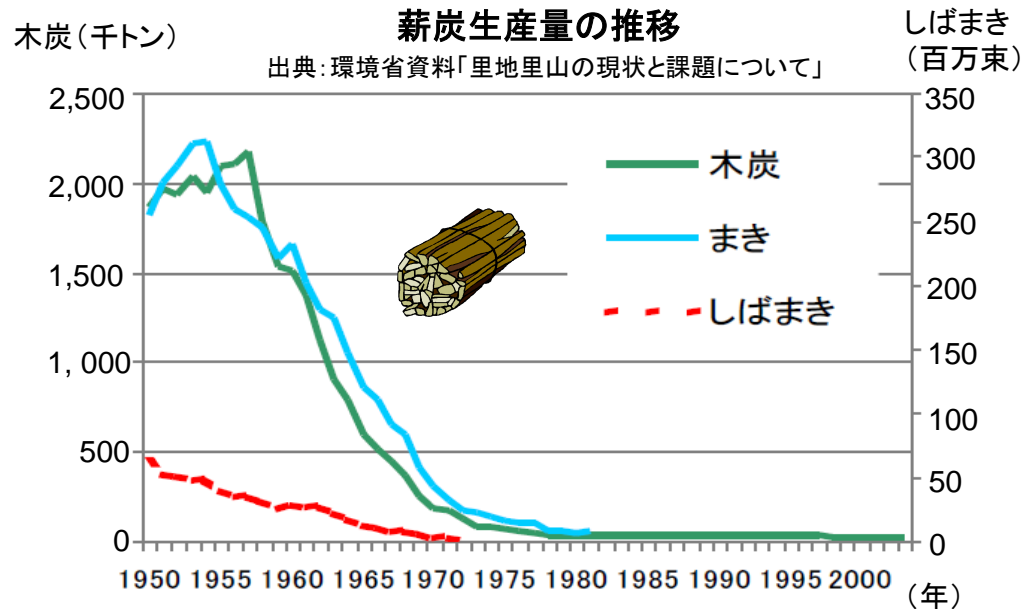
(%)は胸高断面積合計に占める広葉樹の割合

出典：森林総合研究所「広葉樹林化ハンドブック2012」

里山林等の『活かす』森林

Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

人里近い里山林では、薪などの資源として森林を利用しつつ整備してきた。生活様式等の変化に伴い、里山林の価値が低下し、放置林が問題となっている。



手入れがされず
放置されている里山林



課題

里山林の利用価値の低下による放置林の増加

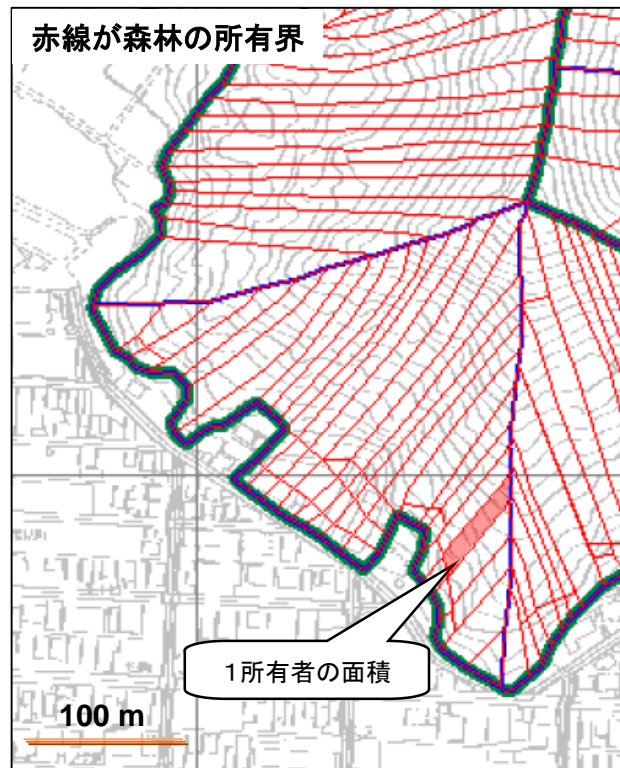
- ・ ツル植物等の繁茂、ヤブ化
- ・ 人の気配がなくなることによる野生鳥獣の生息域拡大
- ・ 竹の進入による植生の単一化

- ・ 景観の悪化
- ・ 農作物等の鳥獣害
- ・ 生物多様性の低下
- ・ 災害の危険性



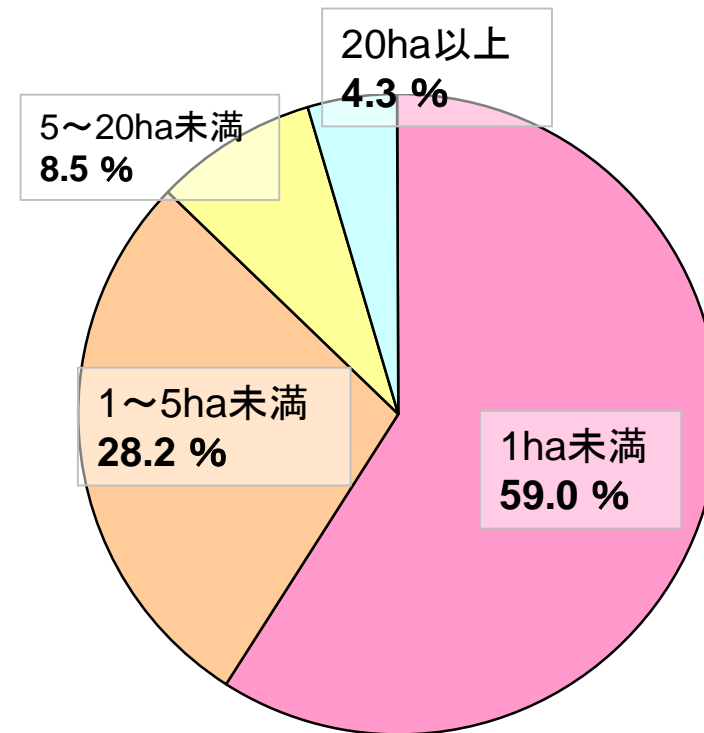
里山林は所有面積が狭小（全体の約6割が1ha未満の所有規模）のため、保全・利用目的やそのための整備目標が共有化されにくく、面的整備が進まない。

なぜ整備が進まないのか？



県 森林簿データ

里山における民有林の所有規模の割合(H22)



出典：「森林整備課調べ」

- 所有面積が狭小な場合が多い。
- 所有者が多いため、整備目標の共有化が困難。
- 整備するための路の開設が困難。

Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

岐阜県では、森林ボランティア団体等による里山林整備への支援を行い、県民協働の森づくり、県民への理解促進の役割を期待してきた。

☆ 平成5年 岐阜森林愛護隊結成

… 平成21年度まで事務局として活動をサポート

- ◆平成5年に森林ボランティア団体等の草分けとして、県指導のもと誕生。
- ◆手入れ不足のため荒廃しつつある森林の整備を目的に活動。
- ◆現在は3つのフィールド(郡上市白鳥、恵那市武並、可児市久々利)で活動
- ◆“達者が何より”を合言葉に、楽しく活動中。 会員数70名。



出典：森林愛護隊ホームページより

☆ 平成18年 ぎふ森林づくりサポートセンター設置

… 森林ボランティア団体等の活動支援

- ◆森林づくりに関する県民の総合相談窓口として設置。
- ◆ホームページやメルマガによる森林づくり活動情報の発信
- ◆指導者や活動フィールドの紹介、用具の貸し出し等を実施。
- ◆メルマガ登録者562名、延べ問合せ件数1,300件(H24.12現在)



岐阜市東部・各務原市での大規模山林火災の復興には、
森林ボランティア団体等の力が発揮された。

**27時間で約410haが延焼した
県内過去最大規模の林野火災**

発生日時：平成14年4月5日（金曜日）

発生場所：岐阜市と各務原市の境にある権現山

樹木が被害を受けた区域面積：209.33ha



出典：県ホームページ「災害資料」より

「みんなの力で緑を大作戦」として、県民、企業、ボランティア団体による自主的活動を実施

- 活動回数・・・77回
- 参加人数・・・約17,000人
- 植栽本数・・・約37,000本

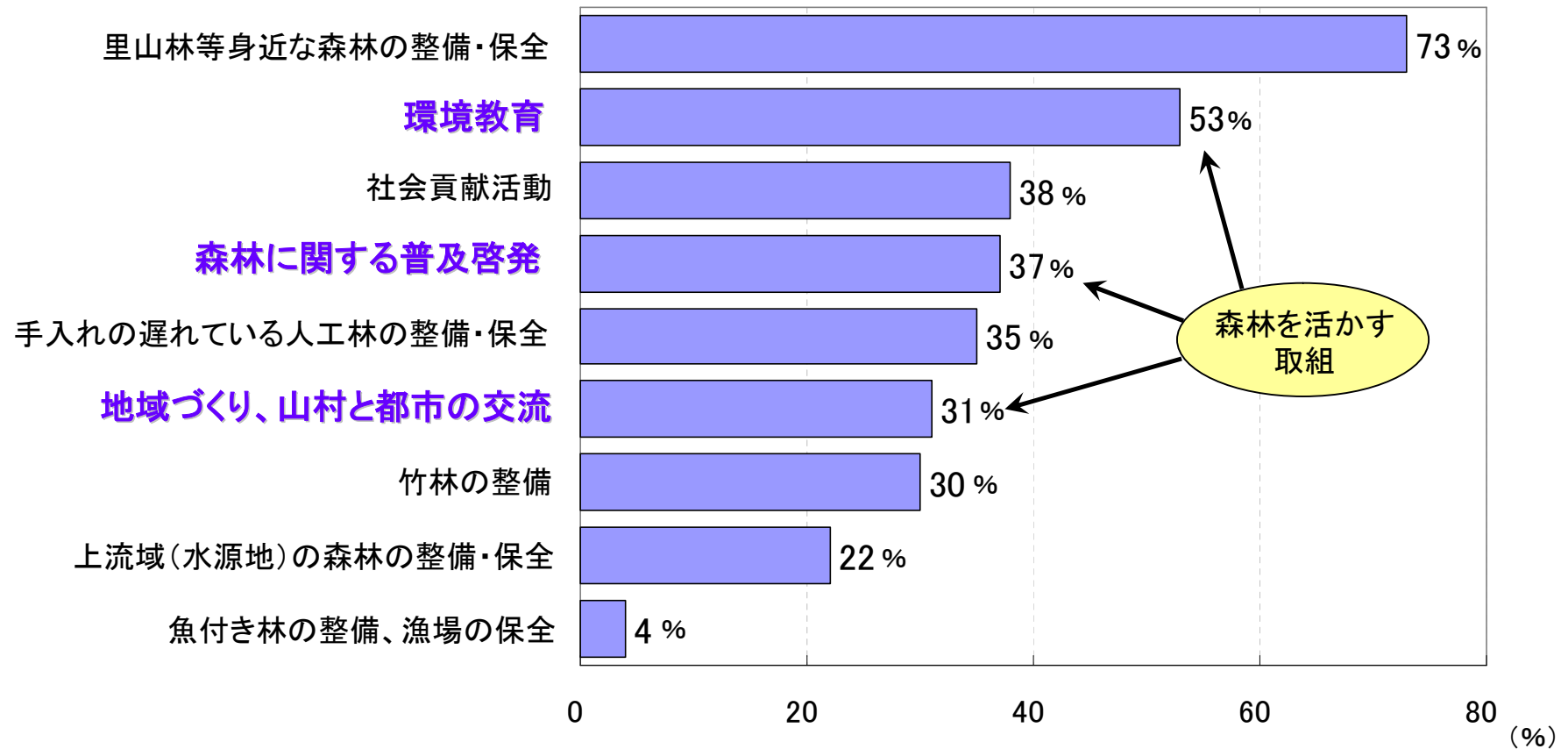
特に、活動の初期には、伐採等の技術を持った
ボランティア団体等が、被災木の処理、林地整理、
作業歩道整備などで活躍。



Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

森林ボランティア団体等の主な内容・目的は、里山林等身近な森林の整備・保全であるが、環境教育や地域づくりなど、森林を活かす取組も多くを占めている。

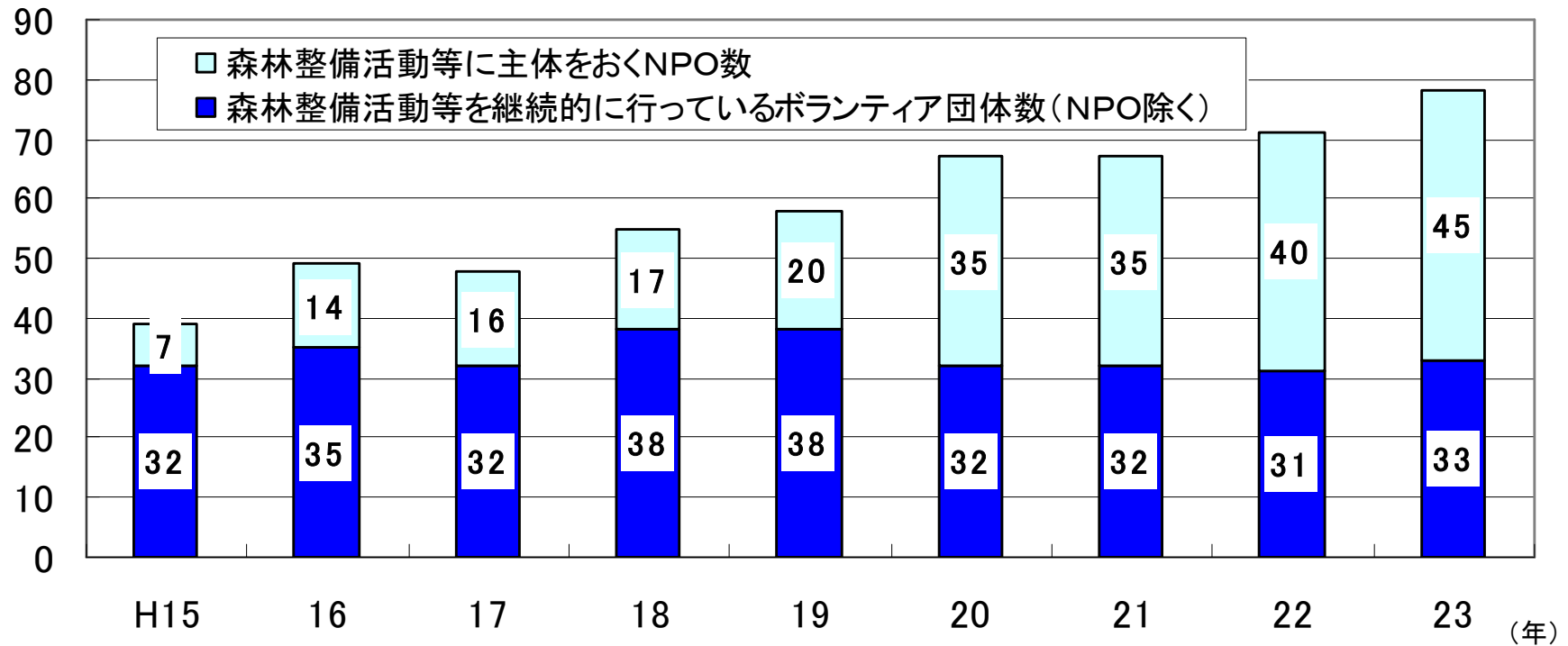
森林づくり活動の主な内容、目的はどのようなことですか？（複数回答可） 母数：1,158



森林ボランティア団体等の数は堅調に増えており、組織や運営がより明確となるNPO活動が増えている傾向がある。

(団体数)

岐阜県内の森林整備等の活動を行うNPO等団体数の推移



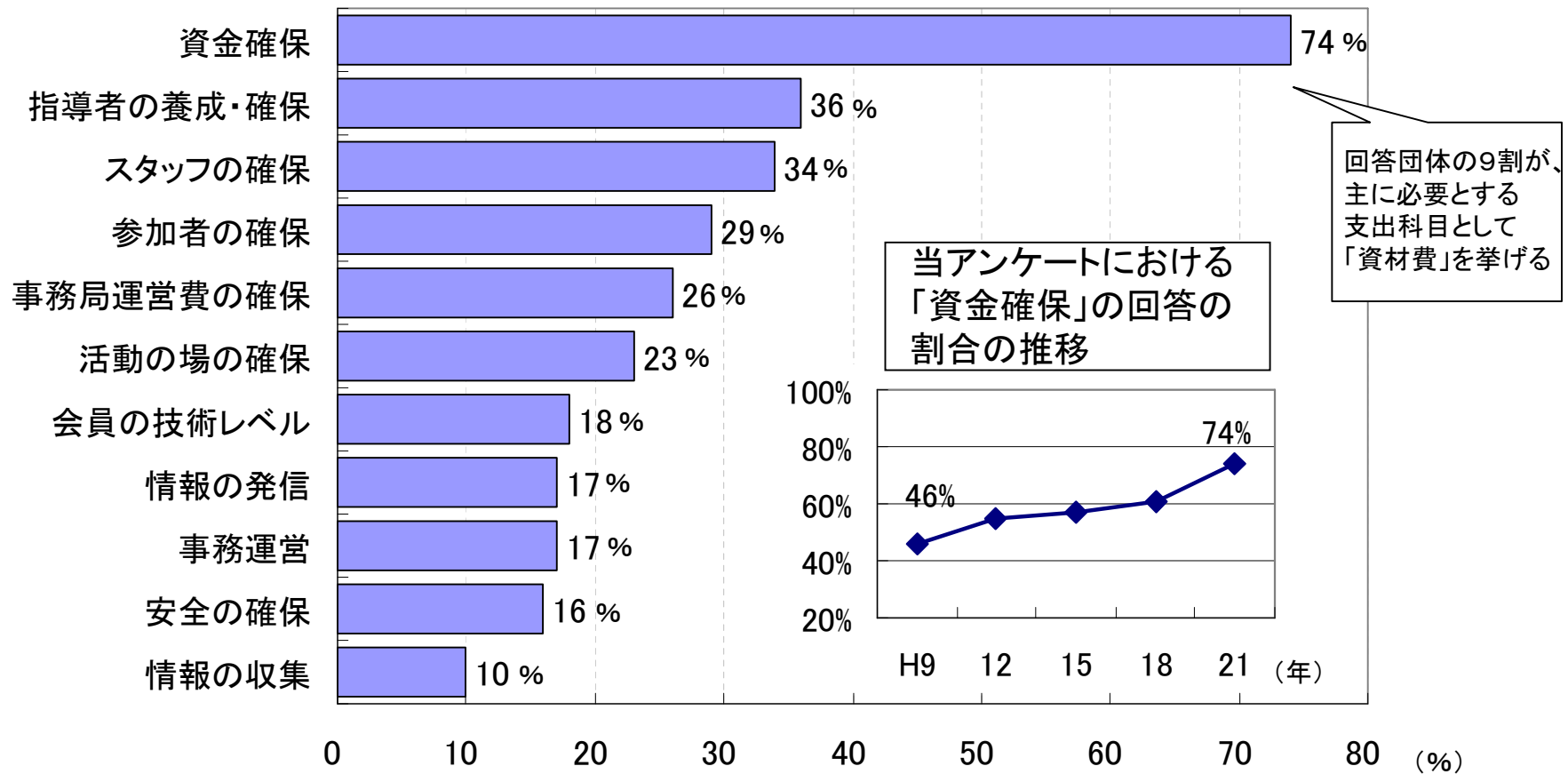
出典：岐阜県森林林業統計書

NPO法人の増加により考えられる効果

- ・組織的な活動が展開される
- ・社会的信用が高まる など

ボランティアやNPO活動では、資金確保に苦労しているところが多い。余暇や楽しみだけでは続かない。活動資金の確保につながる活動が求められる。

森林づくり活動で特に苦労している点は？（複数回答可） 母数：1,105



Ⅱ章：恵みの森林づくりの現状と課題

長く活動している森林ボランティア団体等では、
新規メンバーが少なく、活動が硬直化する傾向が強い。
地域住民と森林を結ぶ新たなつながりが拡がりにくい状況にある。

活動暦 9年
里山林の整備保全団体
事務局 Nさん



会員の高齢化および減少、活動に出てくるメンバーの固定化などが問題。
活動内容の充実も求められるが、主体となって動くメンバーの確保が課題。

新規加入を呼びかけても、若い人は集まらない。里山での作業に興味
があって集まるのは高齢者。高齢者率は高まるばかり・・・。

活動暦 11年
里山林の整備保全団体
(NPO法人)
事務局 Kさん



活動暦 12年
里山林の整備保全団体
事務局 Mさん



里山再生の取組が、地元の方々(特に若い世代)に受け継がれないのが
虚しい。いや、自分たちで楽しめればそれでいいのかな・・・。

出典：H22NPO・ボランティア等森林づくり活動実態調査(ぎふ森林づくりサポートセンター) 及び聞き取り

第Ⅱ章のまとめ

- ① 国の制度の改正等の影響もあり、もともと木材生産には適さない奥山など条件の厳しい人工林の整備がさらに滞る可能性がある。
- ② 放置され、未整備の人工林は、風倒木や山腹崩壊の恐れが増すため、災害から「守る」ための対策をとり、多面的機能を活かすことが必要である。
- ③ 古くから「活かす」ことで整備を進め、守られた里山林は、景観の悪化や鳥獣害の増加等の課題があるが、所有形態が小規模で整備目的の共有が難しく、面的整備が進まない。
- ④ ボランティアによる里山林の整備により、県民協働の森づくり、県民への理解促進の役割を期待してきたが、資金面や後継者の面で課題がある。

課題の整理と対策の方向性

課題

対策の方向性

☆『守って活かす』

○木材生産に適さない、奥山林等の条件の厳しい森林における整備の停滞、災害の危険性の増大。

①

特に重要な箇所の保全の仕組みづくり

②

環境保全を重視した施業方針への転換

☆『活かして守る』

○所有形態が小規模な里山林は整備目的の共有が難しく、面的整備が進まない。
○里山林の価値が見出せない。
○ボランティア活動の限界。

③

新たな目線での森林の価値の創出・発信

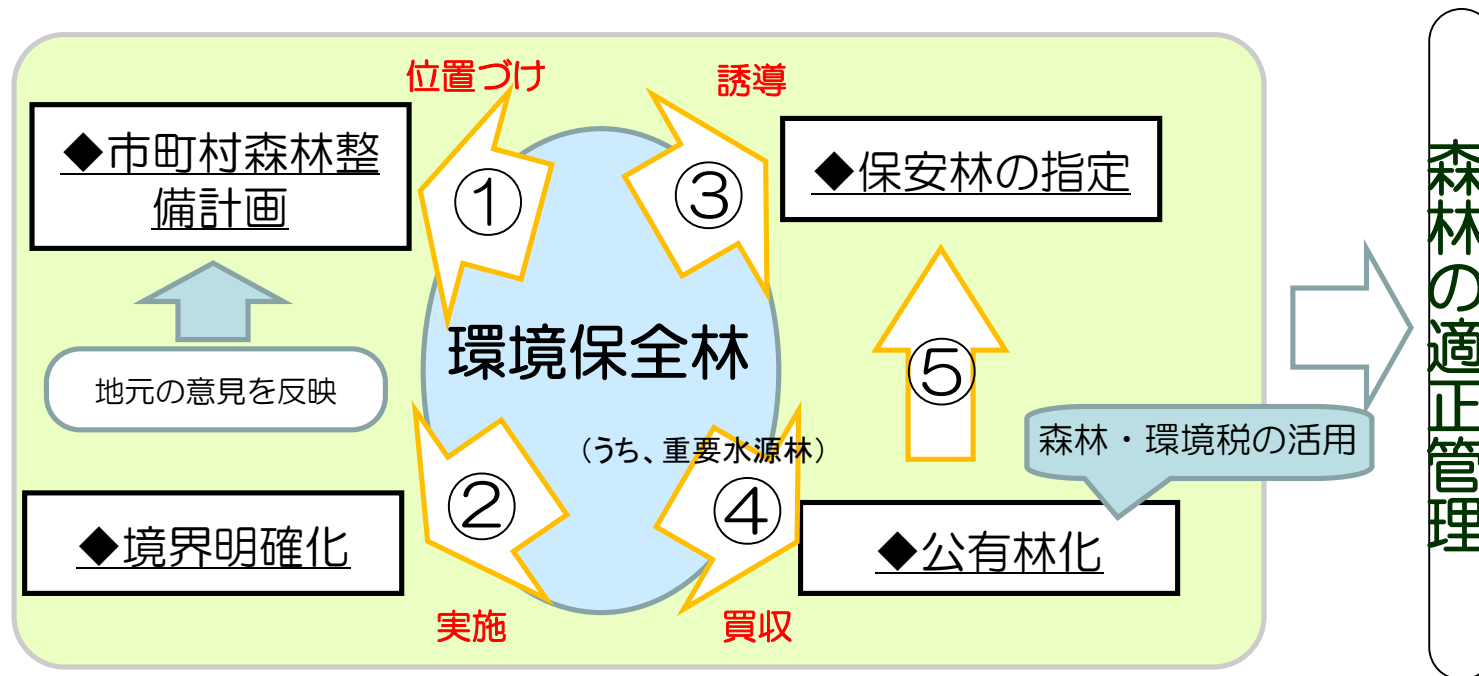
④

森林と地域住民(特に若い世代)とのつながりの拡大

Ⅲ. 恵みの森林づくりの 今後の方向性

岐阜県
の施策1

保全の必要のある環境保全林を市町村森林整備計画で明確に位置づける。特に、重要な水源となる森林は、公有林化し、保安林に指定することより、制度として維持管理の実行力を持たせる。



- ① 市町村森林整備計画に保全すべき環境保全林として位置づけ。
- ② 境界明確化を促進。
- ③ 市町村森林整備計画に位置づけた環境保全林は、保安林への指定を促進。
- ④・⑤ 保安林への指定が困難な重要水源林は公有林化を図り、保安林への指定。

岐阜県

の施策1 (つづき)

重要水源林等の環境保全林の位置づけを、県も積極的に支援する。

県の役割

☆ 環境保全林のゾーニング支援

考え方の提供

G I Sの操作研修

☆ 森林の境界明確化支援

必要な森林情報の提供

事業費の助成

☆ 保安林指定の事務手続き

保安林制度研修会の開催

☆ 公有林化への誘導支援

事業費の助成



林業普及指導員による
計画作成時の綿密な指
導



「木材生産林」と「環境
保全林」を適切にゾー
ニング

市町村森林整備計画への位置づけのイメージ



岐阜県 の施策2

林業経営上、道の整備（開設・維持）がコスト的に厳しい立地の人工林等は、通常よりも思いきった間伐により、広葉樹を発生させ、混交林に誘導することにより、環境保全を重視した森林を維持する。

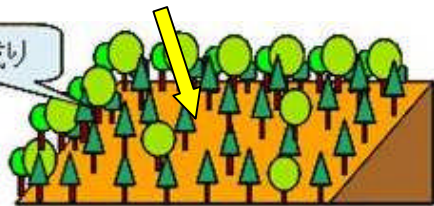


奥山や急峻地など路網の整備・維持管理が困難な人工林

針葉樹
(スギ等)

広葉樹の稚樹が成長
するのに十分な光が入る。

抜き伐り



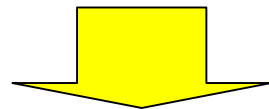
森林・環境税の活用

強度の保育間伐(間伐率30%以上)の実施

※通常、スギ・ヒノキで木材生産を目標とした間伐率は30%以下

※ただし、雪害等が予測される場合は、弱度の間伐の繰り返し

基本的に新たに植える作業を行わず、自然の再生能力を活かす



天然更新

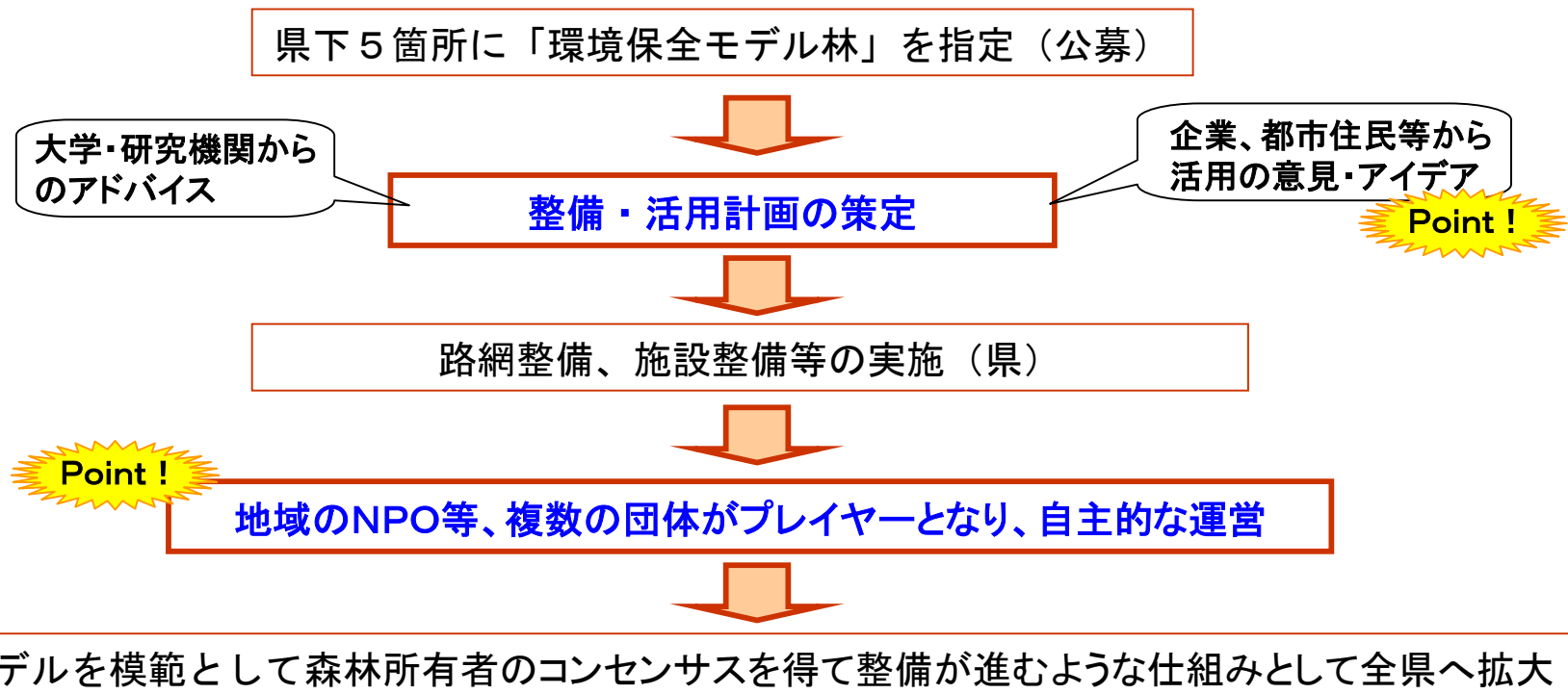


以後、自然の力を活用して、環境保全を重視した森林を長期にわたり維持していく。

土壌保全能力に優れ、空間的に多様な森林をつくると同時に、資源的・時間的にも多様な森林をつくる。

岐阜県
の施策3 里山林は、ビジネスモデルを確立し、より多くの住民にメリットが見える形で整備を進める。

里山林を整備・保全しながら森林資源を活用したアイデアやビジネスマッチングにより活動資金を創出し、地域で継続的に取り組まれるような仕組みづくり。



岐阜県
の施策3
(つづき)

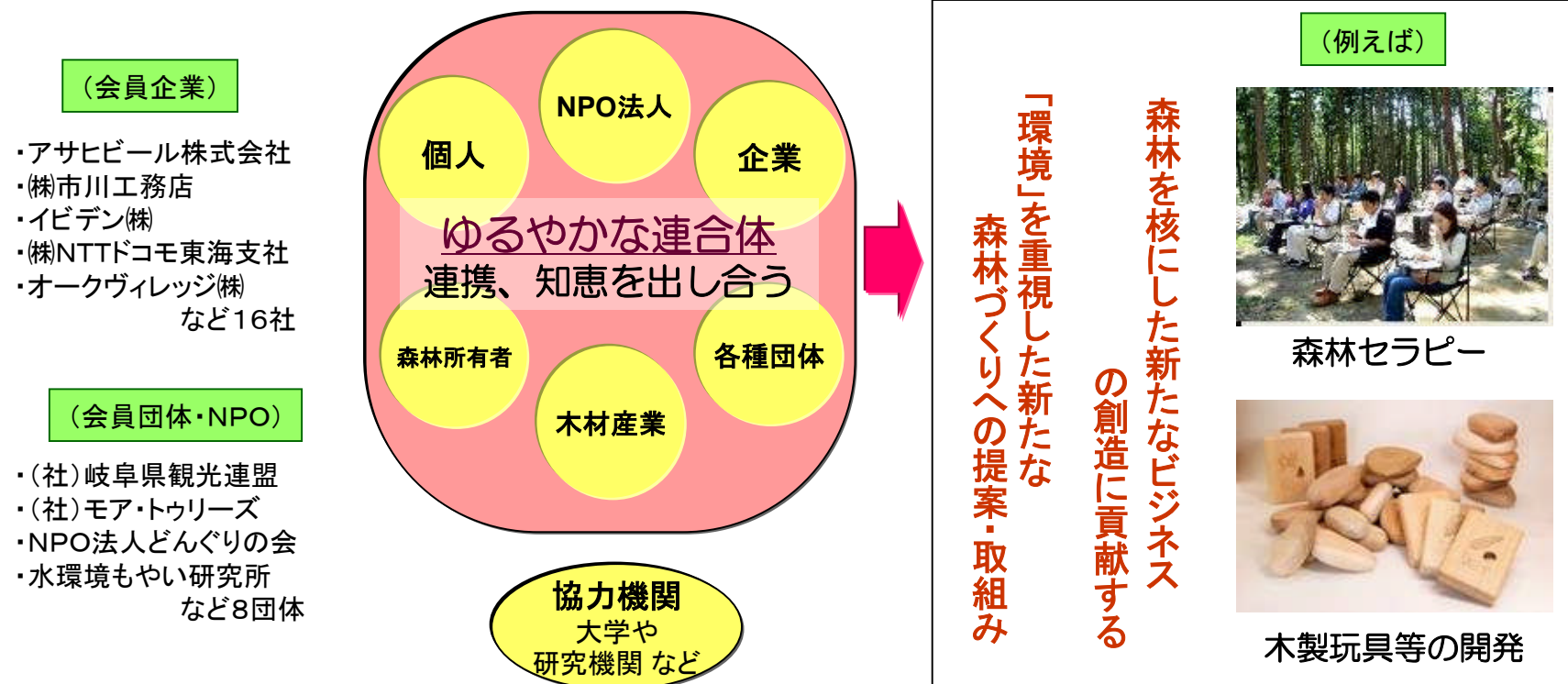
恵みの森づくりコンソーシアムを活用し、都市部住民や異業種の企業と森林をつなげる仕組みを構築し、森林の持つ価値を社会に発信。

「恵みの森づくりコンソーシアム」

⇒ 一言で言うと、「出会いと協働の場」

☆林業の枠を超えた交流会・討論会の開催、会員間のネットワークづくり

☆観光業や商工業とのタイアップによる新たな森林の活用方法・独自商品の検討

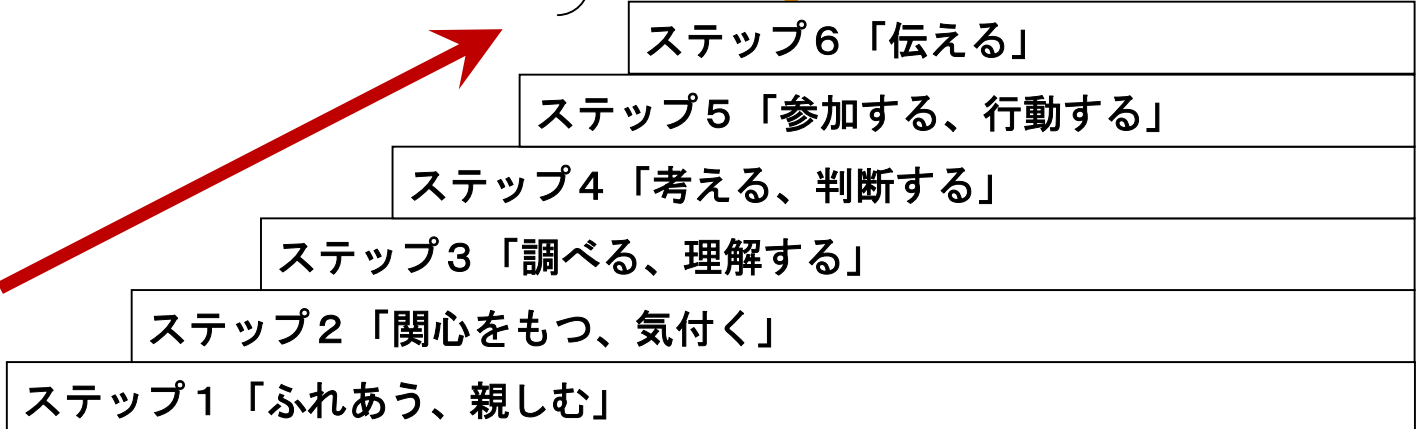


岐阜県
の施策4

森や木に「ふれあい、親しむ」から順に体験することが、森林のために行動できる人を育成するうえで重要であることを、県事業を通じて様々な客体に普及していく。

「ぎふ木育(=森や木からの学び)」における子どもから大人までを対象とした、段階的な取組体系

木育の目指す姿
「森林に対して責任ある行動をとることができる人材」



幼児向け 木育教室



今後4年間で100施設

小学校～高校
緑と水の子ども会議



今後4年間で300校

成人以上
各種イベント・生涯学習



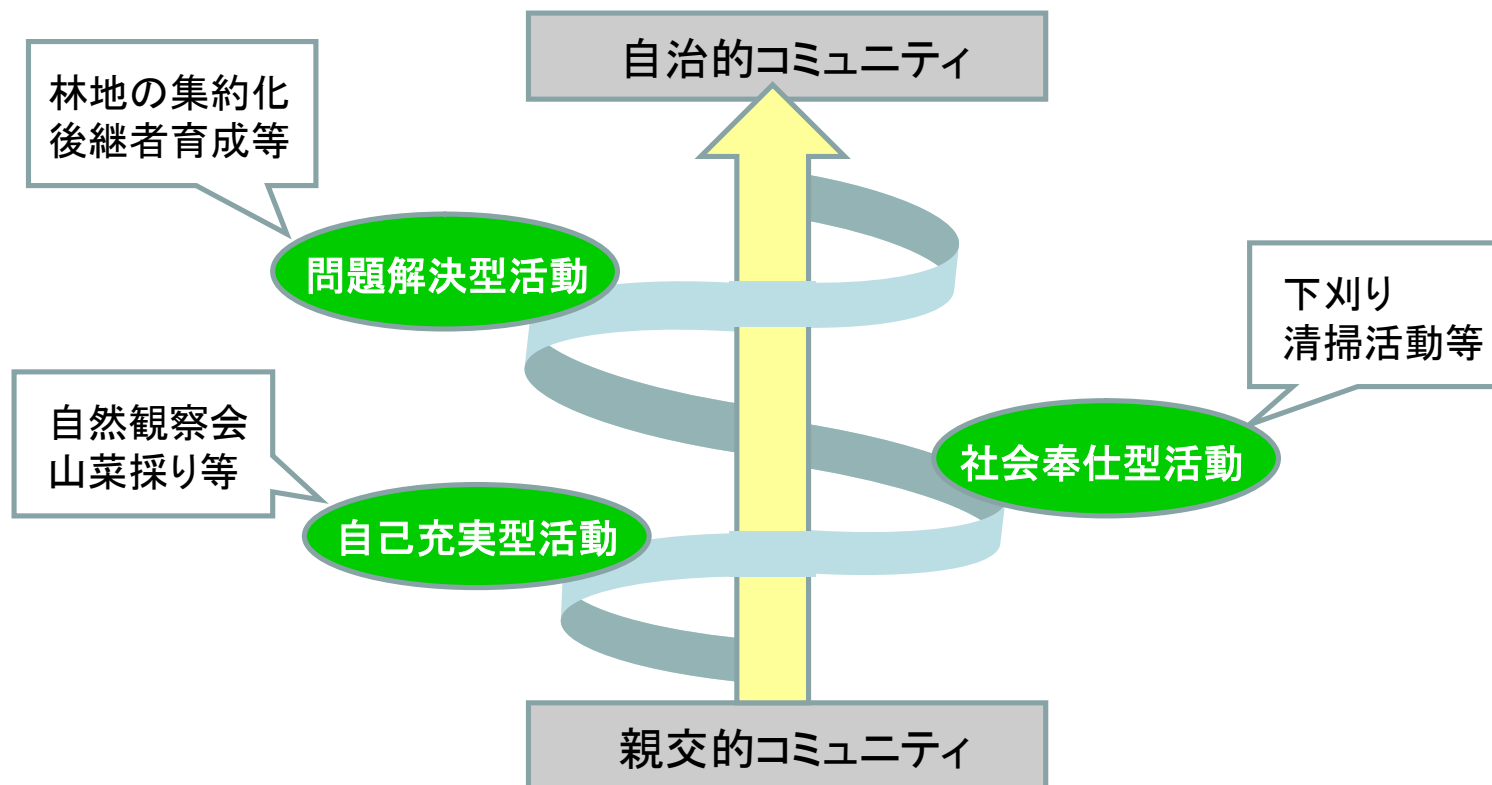
森林文化アカデミー生涯学習 年27回 43

岐阜県
の施策4
(つづき)

地域が持続的な主体になれるような仕組みのためには、活動が単発であったり、いきなり難しい段階から始まったりするのではなく、段階的な取組が必要。

地域の自治的コミュニティは、その活動が段階的に発展していくことを通して形成される住民同士の間・信頼関係の構築により、らせん的発展を遂げる。

(倉沢進『コミュニティ論』(財)放送大学教育振興会)



研究員からの提案

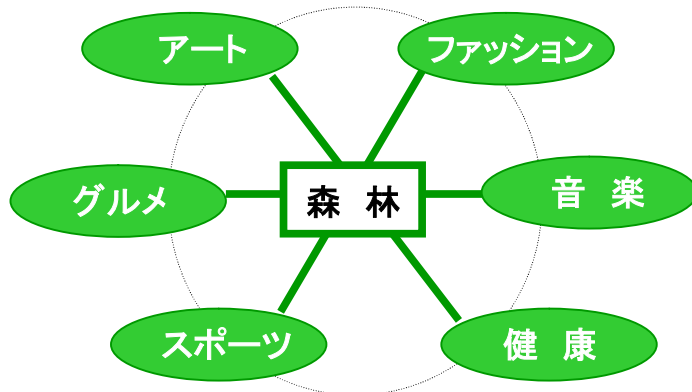
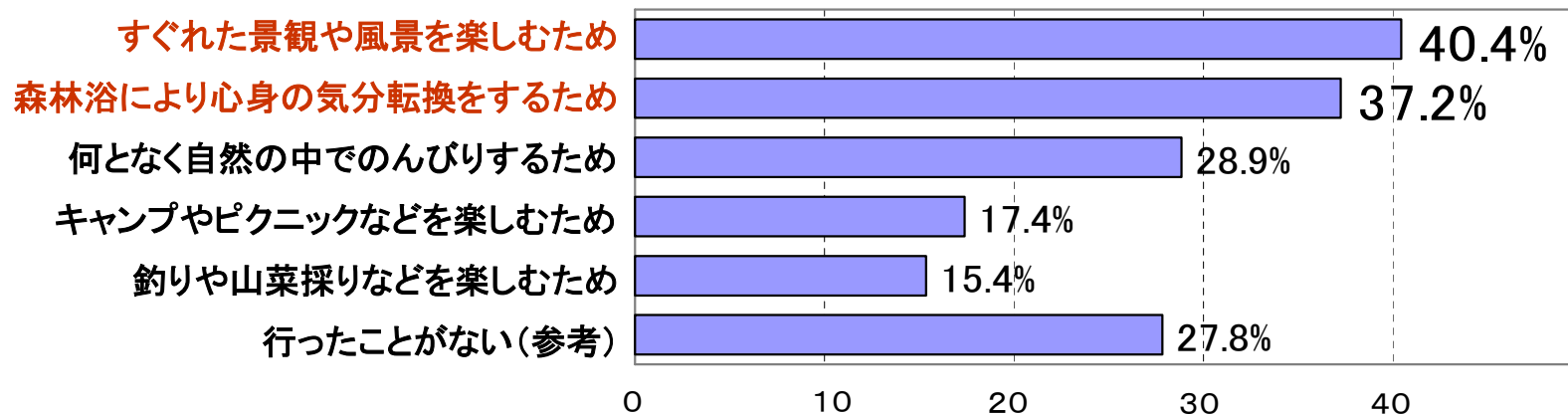
『活かして守る』・・・新たな目線での森林の価値の創出・発信のために

研究員からの提案① 森林空間の新たな利用

実際に森林へ足を運んだ人は、『心地よい空間』を求めている人が多く、森林空間の様々な形での表現は、森林の魅力を伝える重要なツールと成り得る

Q. ここ1年くらいの間に、主にどのような目的をもって、山や森などへ行ったか？

出典：内閣府「森林と生活に関する調査」(2011)の上位5回答 調査対象：全国20歳以上の者3,000人 回収率：61.4% 複数回答



森林空間と様々なジャンルをつなげられるのではないか。

県
アイデアの掘り起こし、情報発信、森林・環境税での支援

『活かして守る』・・・新たな目線での森林の価値の創出・発信のために

研究員からの提案① (つづき) 森林空間の新たな利用

下記のような取組を、ぎふウェルネスツーリズム等と組み合わせていく。

事例1 : 東白川村 ー森の美術館ー

場 所 : 110年生程の東濃桧が立ち並ぶ森林公園。
(高層の桧、中層の広葉樹、下層の植物類と植物体系が
編成された林内の遊歩道をギャラリーに利用)

毎年夏から秋にかけて、100点程の美術作品が出展される。
東白川村の森林の魅力と、自然と芸術が融合して生まれる癒し
を多くの人に感じていただく。



事例2 : 美濃加茂市 ー夜の森で無声映画鑑賞会ー

場 所 : みのかも文化の森の古民家 (野外スクリーン)

木々に囲まれた空間を背景に、無声映画に楽器の生演奏を
重ねるイベント「サウンド・オン・フィルム・イン・ナイト
ミュージアム」。2日間で120人が訪れた。
「身近な森の風景ががらりと変わる空気感を楽しんでもらい、
地域の魅力に気づくきっかけになれば」と、実行委員長。

中日新聞朝刊(H24.5.16)より



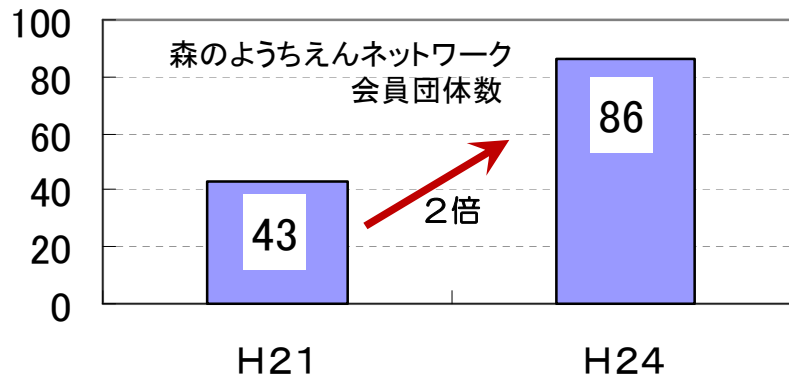
『活かして守る』・・・森林と地域住民（特に若い世代）とつながりを持たせ抜けていくために

研究員からの提案② 子育て世代と里山をつなぐ木育の支援

子育ての場と里山をつなげていくことが若い世代を巻き込む1つの方法でもあり、そういう場を作り出す取組について、森林・環境税等で支援していく。

森のようちえん

年間を通して自然豊かな環境のなかで、子ども(主として3-6歳児)の自主性を尊重して保育する。園単位での取組のほか、園舎を持たず、母親たちの自主保育によるものも多く見られる。H20年に全国ネットワークが設立された。



※未加入のグループも多く、全国の正確な数は不明
出典:「森のようちえんネットワーク」ホームページ



里山林が { ☆子どもと関わり、子どもの育ちを伸ばす場
☆親以外の大人と関わり、社会力を育む場
☆子育て家庭の仲間づくりや相談体制づくりを進める場 } となる。

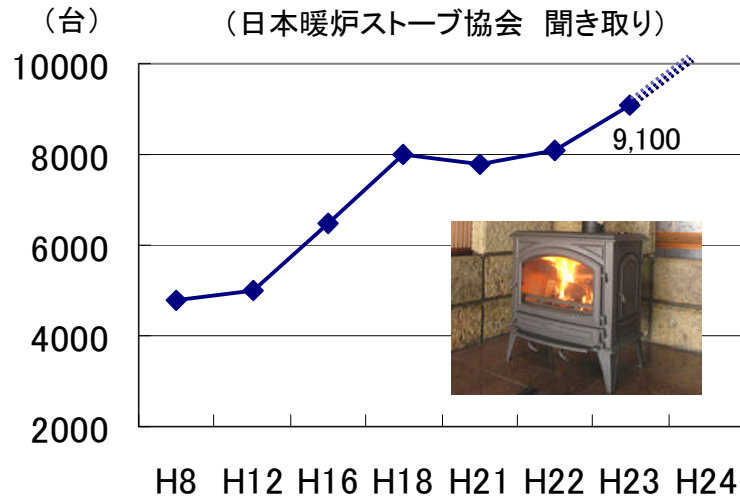
『活かして守る』・・・新たな目線での森林の価値の創出・発信のために

『活かして守る』・・・森林と地域住民（特に若い世代）とつながりを持たせ拡げていくために

研究員からの提案③ 地域住民による持続的な薪づくりの推進

再生可能エネルギーに対する社会的気運の高まりからも、里山林での薪の利用を推進することは、地域住民と里山をつなげる絶好の取組となる可能性がある。

【薪ストーブ販売数の推移(全国)】



【薪の利用による里山林整備 イメージ】



一方で、薪ストーブユーザーからはこんな意見も多い。

- ◆ 継続的に薪を手に入れるのに苦労する。
- ◆ 針葉樹でも大丈夫なの？
- ◆ 出来るだけ安く手に入れたい。

(森と木とのふれあいフェアほか、イベントにおける研究員の聞き取り)

- ・ 活動のコーディネート
- ・ 技術研修会の開催

県

情報発信

薪ストーブ
ユーザー

『活かして守る』・・・新たな目線での森林の価値の創出・発信のために

『活かして守る』・・・森林と地域住民（特に若い世代）とつながりを持たせ拡げていくために

研究員からの提案③ 地域住民による持続的な薪づくりの推進

下記のような取組の情報をユーザーへ発信する機会の創出、また、取組自体をコーディネート出来る人材を育成する。

事例：東白川村 ー高齢者を活用した「東濃松の薪」販売ー

取組主体：株式会社ふるさと企画（村と村民が株主）
生産者：村内の高齢者等 約30名
販売先：東海地方にシェアを持つホームセンター3社

メリット：「経験」を持つ人手を借りる。生きがいの創出。
ブランドイメージを利用した地産外消。村のPR。



出典：東白川村 e-maki net ホームページ

事例：郡上市明宝 ー明宝もくもく市場で状態別に価格を分けて薪販売ー

取組主体：明宝山里研究会
生産者：地域の小規模自伐林家（＝地域住民）
販売先：だれでも購入可

メリット：薪割りが可能な人、取りに来れる人は安く手に入れることができる。交流人口が増す。コミュニティビジネスへの発展。

薪・原木の販売価格（1mあたり）

(形状)	原木		玉切り	薪	
	末口 長さ もしくは	8cm以上 122cm 204cm	長さ40cm	長さ40cm 1m ³	長さ40cm 1束 (直径22.5cm)
スギ			8,000円	15,000円	150円
ヒノキ			10,000円	18,000円	180円
ナラ*			23,000円	35,000円	350円
ミックス*			18,000円	25,000円	250円

*ミックスはナラ以外の広葉樹です。
*ナラのみ、ミックスのみでの販売は致しません。針葉樹と組み合わせでお買い求めください。

出典：明宝もくもく市場のチラシ

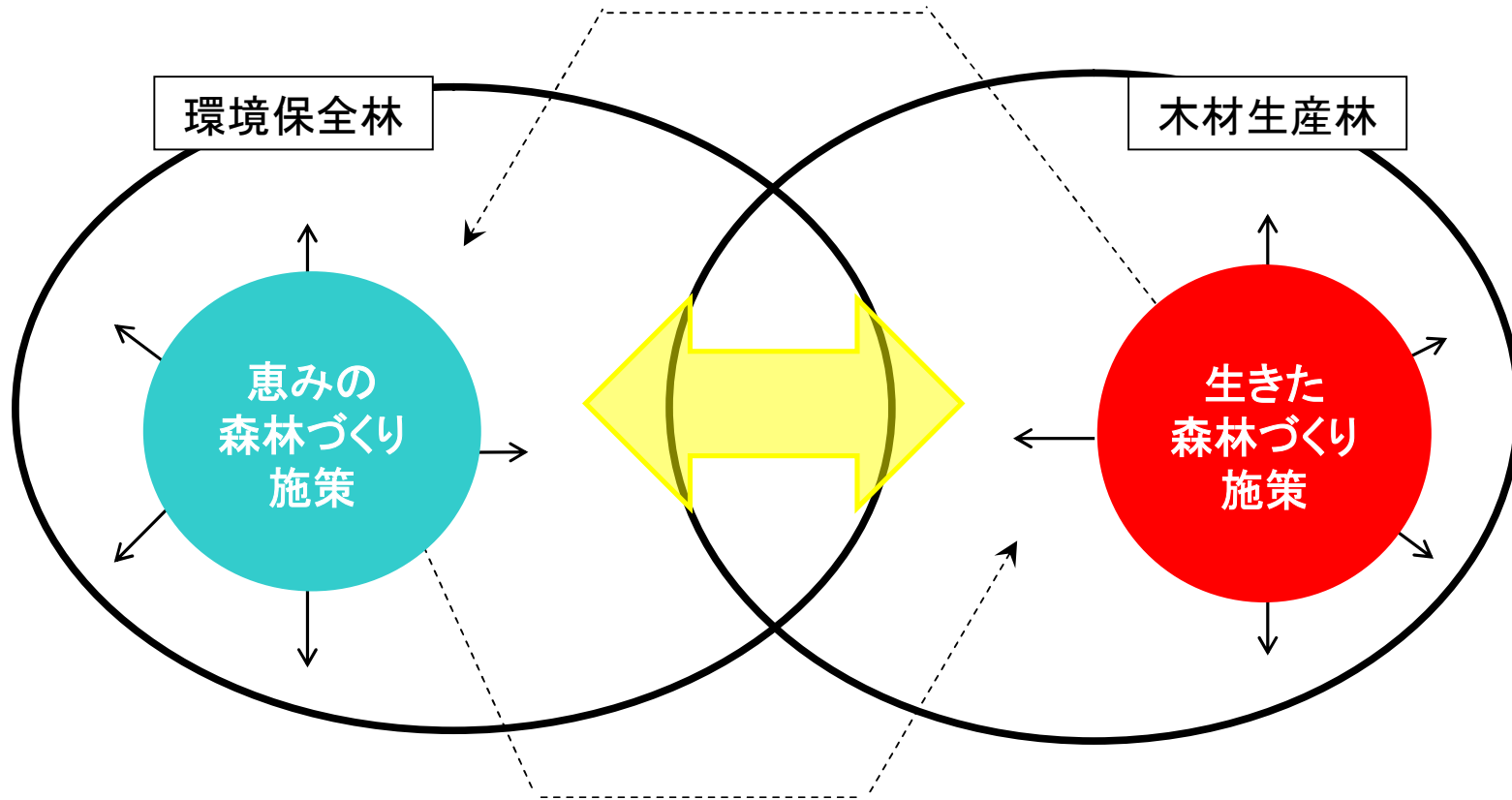
本日の発表のまとめ

- ◆戦後植林してきた人工林の中には、木材価格の低迷等により、木材生産を目指した施策ではカバーできない森林が存在する。
- ◆経営的に厳しい立地条件の森林は、公益的な意味で重要となる多面的機能の発揮を目的とした県独自の施策が必要である。
- ◆重要な保全地域を維持していく公的な仕組みを構築するとともに、自然の再生力を活かした手法で、災害防止や水源林としての機能の高い森林を守り、多面的機能を活かしていく。
- ◆身近な「里山林」は、異業種等とつなげて価値の創出を図るとともに、「空間利用」「子育て」「薪」をキーワードに、若い世代や地域住民の暮らしとつなげる形で活かし、森林を守っていく。

さいごに・・・

2つの方向性が合わさり、岐阜の山、清流の国ぎふを支えていくことになる

山村の産業として成り立ち、そこでの暮らしが存在すること自体が環境保全林への効果



森林や木材のイメージアップにつながり、木材生産林へ波及効果

ご静聴ありがとうございました。